

令和7年度(2025年度) 北海道芽室高等学校 学習指導計画

教科名	国語	学年	1 学年	単位数	2 単位
科目名	現代の国語	担当者	谷 美幸 坂口 英樹		
使用教材	高等学校標準現代の国語(第一学習社) セレクト漢字検定5級～2級 確認と演習(桐原書店) カラー版新国語便覧(第一学習社)				
学習目標	1 言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して的確に理解し、効果的に表現することができる。				
	2 社会に必要な国語の知識や技能を身に付け、実生活に生かすことができる。				
	3 論理的に考える力や想像力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。				
	4 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとすることができる。				
学習方法	1 文章全体を正確に読み取れるよう、声に出して練習する。課題は単元ごとに取り組み、復習の一部にする。わからない語句は自分で調べておく。				
	2 板書を中心にノートを作成する。板書事項以外にも大切な点は書き留め、理解が深まるよう工夫する。感想や自分なりの意見を持ち、発表して表現する。				
	3 日頃から漢字の読み書きの練習や語彙問題の練習に取り組み、定期的な小テストで確認する。				
必ず取り組む 最小目標	与えられた問題や課題に取り組む。				
実現したいと 思う最大目標	問題や課題の的確な答えを導く。				
評価の方法 及び 評価基準 ルーブリック	次の3つの観点に基づき観点別に3段階A、B、Cで評価を行う。それらを総括して前期末・後期末に観点別3段階A・B・Cで評価を行うとともに、5段階「5」～「1」で評価を行う。また、学年末にはそれらを総合して観点別3段階A・B・Cで評価を行うとともに、5段階「5」～「1」で評定を行う。				
	観点	知識・技能	思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度
	評価 方法	・定期考査, 課題 ・休み明けテスト ・小テスト	・定期考査 ・課題の取り組み状況		・学習活動への取り組み状況 ・課題提出状況
	A	実社会に必要な国語の知識や技能を十分身に付けている。	「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。		言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、読書に親しむことで自己を向上させている。
	B	実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けている。	「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしようとしている。		言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、読書に親しむことで自己を向上させようとしている。
	C	実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けていない。	「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしていない。		言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、読書に親しむことで自己を向上させようとしていない。

年 間 計 画				評価の観点		
月	週	単 元	学 習 内 容	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度に学習に
4	2	(入学式)				
	3	オリエンテーション 図書館オリエンテーション 「なぜ本を読むのか」(又吉直樹)	「現代の国語」の目的を理解する。 学校図書館の意義を知り、実際に利用してみる。 文章構成の基礎を確認し、本に関する発表を行う。	○	○	○
	4					
	5					
(学年研修)						
5	1	(連休)				
	2	「世界は謎に満ちている」(手塚治虫)	作品の文章構成を理解し、その構成法によって自ら論理的な文章を書くことを目指す。同時に他者に発信し、比較検討することで論理的思考を身につける。	○	○	○
	3					
	4					
5	「話し方の工夫・待遇表現」 「合意形成のための話し合いを行う」	場面に応じた適切な言葉遣いや話し方をペア・グループワークの実践から理解する。		○	○	
6	1	(前期中間考査)				
	2	「水の東西」(山崎正和)	文章構成の一つの方法として「対比」構造を理解する。目的や意図に応じて、実社会の中から適切な題材を決め、集めた情報の妥当性や信頼性を吟味して、伝える。	○	○	○
	3					
	4					
5						
7	1	(学校祭)				
	2	「間」の感覚」(高階秀爾)	内容や構成、論理の展開を的確に捉え、要旨を把握する。文章構成の一つの方法として「対比」構造を理解する。	○	○	○
	3					
	4					
5	「書き方の基礎レッスン」	読書感想文の書き方について理解を深める。その上で図書館の本を読み、自分の意見や考えをまとめる。		○	○	
8	1	(夏季休業)				
	2					
	3					
	4					
5						
9	2	「ステレオタイプの落とし穴」(原沢伊都夫)	筆者が自説を述べるための論の進め方を捉え、ステレオタイプの落とし穴について理解する。	○	○	
	3	(前期期末考査)				
	4	「ステレオタイプの落とし穴」(原沢伊都夫)	言葉の意味を正確に理解し、身近な例をもとに社会のあり方について考察する。	○	○	○
	5					
10	1	「資料を読み解く」	グラフや表の効果的な使い方と、適切な読み取り方を理解する。	○	○	
	2					
	3					
	4	「黄色い花束」(黒柳徹子) 「社会に対する意見文を書く」	相手の立場になって思考し、筆者の思いについて考えを深める。 新聞を読み、子どもを取り巻く社会問題について考察する。	○	○	○
11	1				○	○
	2					
	3					
	4	「日本語は世界をこのように捉える」(小浜逸郎)	「具体」と「抽象」の関係を学び、実際に例を挙げて自らの表現技法を高める。	○	○	
12	1	(後期中間考査)				
	2	「人はなぜ仕事をするのか」(内田樹) 「情報の探索と検索」 「情報源の明示」	筆者の意見をふまえ、貨幣の意味と仕事の本質について考える。 情報検索の注意点とマナーを理解し、グループで話し合いながら意見を発表する。		○	○
	3					
	4					
5	「言語としてのピクトグラム」(本田弘之)	言葉には認識や思考を支えるはたらきがあることを理解する。生活の中に実在するピクトグラムについて調べ、効果について話し合う。	○		○	
1	2	(冬季休業)				
	3					
	4					
	5					
2	1	「弱いロボット」の誕生」(岡田美智男)	筆者の意見を踏まえ、持続可能な社会について考える。	○		○
	2					
	3					
	4	「AIは哲学できるか」(森岡正博)	演繹法・帰納法について理解し、推論と仮説を立てて論述する構成を実践する。		○	○
(後期期末考査)						
3	1	「実用的な手紙文の書き方」	実用的な手紙の書き方を学ぶ。	○		○
	2	(高校入試)				
	3	「スピーチで自分を伝える」	構成を工夫したメモをもとにブックトークを行う。限られた時間の中での効果的な話し方を学ぶ。			○

令和7年度(2025年度) 北海道芽室高等学校 学習指導計画

教科名	国語	学年	1 学年	単位数	2 単位
科目名	言語文化	担当者	前田 英伸		
使用教材	高等学校 標準言語文化（第一学習社）				
	学ぶぞ古文と漢文(尚文出版) ・ 古文単語330(文英堂)				
	・ カラー版国語便覧(第一学習社)				
学習目標	1 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。				
	2 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。				
	3 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。				
	4				
学習方法	1 授業の時だけではなく、積極的に教科書の読解をし、自分の考えを深めましょう。また、教科書のみならず本や新聞の「活字」に触れる機会を増やしましょう。				
	2 ノートをしっかり取るだけでなく、板書したこと以外も、ノートにメモ書きする習慣をつけましょう。また、ワーク、小テスト等、様々な課題があるのでしっかりとこなしましょう。				
	3 古典分野については、「声に出して読む」とこと、予習・復習が大事です。古文は『体系古典文法』を使って、文法理解に努めましょう。				
必ず取り組む最小目標	行うべき課題に取り組んでいる。				
実現したいと思う最大目標	単元内容から得た学びを、日頃の授業や生活において活かす。				
評価の方法 及び 評価基準 ルーブリック	次の3つの観点に基づき観点別に3段階A、B、Cで評価を行う。それらを総括して前期末・後期末に観点別に3段階A・B・Cで評価を行うとともに、5段階「5」～「1」で評価を行う。また、それらを総合して学年末に観点別に3段階A・B・Cで評価を行うとともに、5段階「5」～「1」で評定を行う。				
	観点	知識・技能	思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度
	評価方法	・定期考査、課題 ・夏休み明けテスト ・小テスト、単元テスト	・定期考査 ・課題への取り組み状況		・学習活動への取り組み状況 ・課題、ノート提出状況
	A	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を深く身に付けているとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めている。	「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的思考力や共感力、想像力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。		言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、読書に親しむことで自己を向上させ、言語文化の担い手としての自覚をもとうとしている。
	B	社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けているとともに、我が国の言語文化に対する理解をしようと努めている。	「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的思考力や共感力、想像力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしようと努めている。		言葉を通して他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしながら、読書に親しみ、言語文化を大切にしようとしている。
	C	国語の知識や技能を身に付けていない。また、言語文化に対する理解を深めていない。	「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的思考力や共感力、想像力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしようと努めていない。		言葉を通して他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めようとしせず、読書に親しみ、言語文化を大切にしようとしていない。

年 間 計 画				領 域				評 価 の 観 点		
月	週	単 元	学 習 内 容	話 す・ 聞 く	書 く こ と	読 む こ と (古 典)	読 む こ と (近 現 代)	知 識 ・ 技 能	思 考 ・ 判 断 ・ 表 現	主 体 的 に 学 習 に 取 り 組 む 態 度
4	2	小説の学習・「とんかつ」話の個性と展開を理解し、せりふや行動から主人公の心情を読み取る。	(入学式)					/	/	/
	3		・登場人物の背景を理解する。			2	○			
	4		・内容や展開を理解する。・表現技法を学び、人間描写の巧みさを知る。			2		○	○	
	5						/	/	/	
5	1	古文の学習・児のそら寝文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を理解している。					/	/	/	
	2		・古典の世界に親しみ、現代に通じる話の面白さや人間描写の巧みさを知る。			2		○	○	
	3		・内容や展開を的確に捉えて、内容を解釈する。			2		○		
	4		・歴史的仮名遣いや古今異義語について、文語の決まりを理解する。			2	○			
6	5	絵仏師良秀 作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。	・内容や展開を的確に捉えて、内容を解釈する。			2			○	
	1		・品詞の種類について、文語の決まりを理解する。			2	○			
	2		(前期中間考査)				/	/	/	
	3		・文の構成単位を理解し、文を文節や単語に分ける。			2	○			
5	4	漢文の学習 ものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えを	・古典としての漢文を読むことの大切さに気づき、漢文への学びの理解を深め			2				○
	5		・作品に表れているものの見方や考え方を捉え、内容を解釈する。			2		○		
7	1	五十歩百歩 漢文の訓読に慣れる。	返り点、助字、再読文字の使い方を理解する。			2		○		
	2		(学校祭)					/	/	/
	3	枕草子 文章の種類を踏まえ、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。	・語句の量を増やし、語彙を豊かにする。			2		○		
	4		・自由な文体の随筆について、内容や展開を的確に捉える。			2			○	
	5						/	/	/	/
8	1		(夏季休業)					/	/	/
	2						/	/	/	
	3						/	/	/	
9	4	羅生門 下人の行動や心理をもとに場面展開を理解する。	・典拠になった「今昔物語」との比較を通し、その差異から作者の意図を読み			2			○	
	5		・難読語を理解し、比喩などの表現技法を学ぶ。			2		○		
	2		(前期期末考査)					/	/	/
	3		・読解を終えて、結末の意味を話し合い、文章にまとめる。		2	2			○	○
	4	伊勢物語 内容構成、展開などについての的確に捉えている。	・作品に表れているものの見方や考え方を捉え、内容を解釈する。			2				○
10	5		・和歌が果たしている役割を押さえ、歌物語の特徴と読み解き方を理解する。			2				○
	1		・古文常識についての理解を深める。			2		○		
	2	二十億光年の孤独 作品表れているものの見方・考え方について理解している。	・同時代の詩に親しみ、現代的な世界観によって創作されたイメージを理解する。				2			○
	3	矛盾・蛇足 文章の種類を踏まえて、内容構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。	・文章の種類を踏まえて、たとえ話を読み解き、内容や展開を的確に捉える。			2		○		
	4		・作品に表れているものの見方や考え方を捉え、内容を解釈する。			2			○	
11	1		・他の故事成語について調べ、言葉により人の心を動かす手段としての寓話を		2					○
	2	徒然草 作者の批評精神を具体的に読み取れている。	・用言を正確に理解する。			2		○		
	3		・助動詞の意味を理解し、正確な口語訳に努める。			2			○	
	4		(後期中間考査)					/	/	/
12	1	万葉・古今・新古今 作品中の物の見方、感じ方、考え方を捉えている。	・和歌の修辞技法を進んで理解し、特徴を捉えようとしている。			2				○
	2		・作品に表れているものの見方や考え方を捉え、内容を解釈する。			2			○	
	3	唐詩の世界 文章の構成展開表現について評価している。	・漢詩の決まりを理解する。			2		○		
	4						/	/	/	/
	5		(冬季休業)					/	/	/
1	2						/	/	/	/
	3		・表現や技法に留意して漢詩を鑑賞し、古代中国の思いを読み取る。			2			○	○
	4		鏡 作品に表れているものの見方・考え方を捉え、自己と向き合う態度を身につけている。	・登場人物の心理や行動を文脈に沿って理解し、作品の主題に迫る。			2			○
2	5		・歴史的・社会的背景と文学作品との関係を理解する。			2		○	○	
	1		・読書の意義と効用を理解する。			2				○
	2	論語 内容構成、展開などについての的確に捉えている。	・論語が我が国の文化に及ぼした影響を理解し、孔子について調べたり話したりする。			2			○	○
	3	清水へ・手毬歌 作品中の物の見方、感じ方、考え方を捉えている。	・短歌の形式や表現を理解し、短歌文芸に親しむ。			2		○	○	○
	4		(後期期末考査)					/	/	/
3	1		・俳句の形式や表現を理解し、俳句文芸に親しむ。			2		○	○	○
	2	短歌を作る 表現の仕方を工夫している。	(高校入試)					/	/	/
	3		・折句を用いて、自分の感じたことを短歌で表す。		2				○	○
合計時数					6	46	22			

令和7年度(2025年度) 北海道芽室高等学校 学習指導計画

教科名	地歴公民		学年	1 学年	単位数	2 単位
科目名	地理総合		担当者	寺 嶋 優 駿		
使用教材	教科書： 高等学校 新地理総合(帝国書院)					
	地図帳： 新詳高等地図 (帝国書院)					
	資料集： 新詳地理資料 COMPLETE 2025(帝国書院)					
学習目標	現代世界の地理的な諸課題を地域性や歴史的背景、日常生活との関連を踏まえて考察し、現代世界の地理的認識を養うとともに、地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。					
学習方法	1 授業を大切に積極的に取り組み、重要な知識の定着に心がける。また、課題にしっかり取り組み、忘れずに提出する。					
	2 暗記だけでなく、グラフを分析したり地図の読図・作図などができることが重要である。わからない地名などが出てきたときには地図帳で調べることが大切である。					
	3 世界諸地域の生活・文化及び地球的課題を理解するためにも、新聞やテレビ等から積極的に情報を得ようとする姿勢が大切である。					
必ず取り組む最小目標	生徒として最低限の義務を果たすことができる。(1)出席する (2)私語・居眠りをしない (3)チャイム前着席・授業の準備を忘れない (4)ノートやプリントの記入は丁寧に行う。					
実現したいと思う最大目標	地球市民として「異文化の尊重」と「国際協力の推進」のために、(1)多文化共生 (2)持続可能な開発 (3)人権尊重 (4)公正さ などの実現をめざして積極的に関わっていこうとする態度を身につける。					
評価の方法 及び 評価基準 ルーブリック	次の3つの観点に基づき観点別に3段階A、B、Cで評価を行う。それらを総括して前期末・後期末に観点別に3段階A・B・Cで評価を行うとともに、5段階「5」～「1」で評価を行う。また、それらを総合して学年末に観点別に3段階A・B・Cで評価を行うとともに、5段階「5」～「1」で評定を行う。					
	観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度
	評価方法	定期考査、課題、小テスト		定期考査、課題		学習活動状況、課題
	A	①積極的に意見を述べ仲間と学習できている ②気がついたことがあればノート・メモを取るなど記録することができる ③ポイントを選び、自分なりにまとめをすることができる		①理解したことをもとに自分の意見を持ち、仲間にわかりやすく表現できる ②課題を解決できる		①興味や関心があることに取り組むことができる ②わからないことや気になることを調べたり、教員や仲間に聞いて解決することができる
	B	①話している人を見て、うなずくなど反応しながら話を聞いている ②黒板に書かれていることに加えて、ポイントをメモすることができる		①理解したことをもとに自分の意見を持ち、表現できる ②課題を見つけ、解決方法を見つけようとしている		①毎日、学習した内容を復習できる ②わからないことや気になることを調べたり、教員や仲間に聞いて解決しようとする
C	①話している人を見て話を聞いている ②黒板の内容をノートに取ることができる ③提出物を期日まで提出できる		①アドバイスがあれば意見を持つことができる ②アドバイスがあれば課題をグループとともに解決することはできる		①考査前は学習した内容を復習できる ②提出物を期日まで提出できるように取り組める	

年 間 計 画					評価の観点		
月	週	単 元	学 習 内 容		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度に学習に
4	2	(入学式)					
	3	地球上の位置と時差	授業オリエンテーション 地球上の位置と私たちの生活 時差と私たちの生活		○		
	4	地図の役割と種類	地球儀と地図 身の回りの地図		○		
	5		統計地図の種類と利用 地理情報システム(GIS)の利用			○	
5	1	(連休)					
	2	現代世界の国家と領域	現代世界の国家		○		
	3	(宿泊研修)					
	4		日本の位置や領域			○	○
	5	グローバル化する世界	国家間の結び付き 貿易によって結び付く世界		○		
6	1		さまざまな交通網の発達 世界を結ぶ通信網の発達 観光のグローバル化		○		
	2	(前期中間考査)			○	○	
	3	世界の地形と人々の生活	大地形と人々の生活 変動帯と人々の生活 安定地域と人々の生活		○		
	4		河川がつくる地形と人々の生活 海岸の地形と人々の生活 氷河地形・乾燥地形・カルスト地形と人々の生活		○		
	5	世界の気候と人々の生活	気温・降水と人々の生活 大気大循環と人々の生活 世界の植生と気候区分			○	
7	1		熱帯の生活 乾燥帯の生活 温帯の生活 亜寒帯・寒帯の生活		○		
	2	(学校祭)					
	3	世界の言語・宗教と人々の生活	世界の言語と人々の生活文化		○		
	4		世界の宗教と人々の生活文化		○		
	5						
8	1	(夏季休業)					
	2						
	3	(夏休み明けテスト)					
	4	歴史的背景と人々の生活	歴史的背景が人々の生活に与える影響			○	
	5	世界の産業と人々の生活	人々の生活を支える農業の発展		○		
9	2	(前期期末考査)			○	○	
	3		人々の生活を支える工業の発展		○		
	4		グローバル化する現代の産業と人々の生活		○		
	5	複雑に絡み合う地球的課題	相互に関連する地球的課題とその解決に向けて			○	
	10	1	地球環境問題	多様な地球環境問題			○
2			熱帯林の破壊への対策			○	
3			地球温暖化への対策			○	○
4		資源・エネルギー問題	世界のエネルギー・鉱産資源		○		
11	1		エネルギー利用の現状と課題 地域で異なるエネルギー問題への取り組み			○	
	2	人口問題	世界の人口 発展途上国と先進国の人口問題		○		
	3		地域で異なる人口問題への取り組み			○	
	4	(後期中間考査)			○	○	
12	1	食料問題	飢餓と飽食			○	
	2		地域で異なる食料問題への取り組み			○	○
	3	都市・居住問題	世界の都市の発達 発展途上国と先進国の都市・居住問題			○	
	4		地域で異なる都市・居住問題への取り組み		○		
	5	(冬季休業)					
1	2						
	3	(冬休み明けテスト)					
	4	日本の自然環境	日本の地形		○		
2	5		日本の気候		○		
	1	地震・津波と防災	地震・津波による災害 地震・津波の被災地の取り組み		○		
	2	火山災害と防災	火山の恵みと災害 火山と共生する地域の取り組み		○		
	3	気象災害と防災	さまざまな気象災害 気象災害への取り組み			○	
3	4	(後期期末考査)			○	○	
	1	自然災害への備え	減災の取り組み 被災地への支援			○	
	2	(高校入試)					
	3	生活圏の調査と地域の展望	地理的な課題と地域調査 現地調査の準備 現地調査の実施 調査の分析と発表			○	○

令和7年度(2025年度) 北海道芽室高等学校 学習指導計画

教科名	地理歴史	学年	1 学年	単位数	2 単位
科目名	歴史総合	担当者	辻 眞		
使用教材	①現代の歴史総合 みる・読みとく・考える（山川出版社） ②歴史総合図説シンフォニア（帝国書院）				
学習目標	1 社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりすることをめざす。 2 広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に対応することをめざす。 3 平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者をめざす。 4 公民としての資質・能力を身に付けることをめざす。				
学習方法	授業を大切にすること 1 〔教科書の熟読、ノートの板書・メモ・まとめ・感想・丁寧さ、資料集の活用、グループ学習〕 2 テスト前に試験範囲は完璧に学習して仕上げる。 〔1～2週間前から教科書・ノート・プリントなどで丁寧に復習する。〕				
必ず取り組む最小目標	授業に臨む際には、生徒として最低限の義務を果たす。 〔出席、私語や居眠りをしない、必要な教材教具の用意、説明の理解、ノートを取り、提出物の厳守、主体的に学ぶ〕				
実現したいと思う最大目標	歴史的な見方や考え方を生かして、現代的な諸課題を考察し、その諸課題に対して、歴史的な問いを立て、これまでの学習をもとに考察・表現できるようにする。				
評価の方法 及び 評価基準 ルーブリック	次の3つの観点に基づき観点別に3段階A、B、Cで評価を行う。それらを総括して前期末・後期末に観点別に3段階A・B・Cで評価を行うとともに、5段階「5」～「1」で評価を行う。また、それらを総合して学年末に観点別に3段階A・B・Cで評価を行うとともに、5段階「5」～「1」で評定を行う。				
	観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
	評価方法	・定期考査 ・課題 ・小テスト	・定期考査 ・課題の取り組み状況	・学習活動への取り組み状況 ・課題提出状況	
	A	①積極的に意見を述べ仲間と学習できている ②気がついたことがあればノート・メモを取るなど記録することができる ③ポイントを選び、自分なりにまとめをすることができる	①理解したことをもとに自分の意見を持ち、仲間にわかりやすく表現できる ②課題を解決できる	①興味や関心があることに取り組むことができる ②わからないことや気になることを調べたり、教員や仲間に聞いて解決することができる	
	B	①話している人を見て、うなずくなど反応しながら話を聞いている ②黒板に書かれていることに加えて、ポイントをメモすることができる	①理解したことをもとに自分の意見を持ち、表現できる ②課題を見つけ、解決方法を見つけようとしている	①毎日、学習した内容を復習できる ②わからないことや気になることを調べたり、教員や仲間に聞いて解決しようとする	
C	①話している人を見て話を聞いている ②黒板の内容をノートに取ることができる ③提出物を期日まで提出できる	①アドバイスがあれば意見を持つことができる ②アドバイスをあれば課題をグループとともに解決することはできる	①考査前は学習した内容を復習できる ②提出物を期日まで提出できるように取り組める		

年 間 計 画				評価の観点		
月	週	単 元	学 習 内 容	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
4	2	(入学式)				
	3	世界のつながり 歴史の扉	①歴史と私たち ②歴史の特質と資料	○	○	○
	4	I 近代化と私たち	1交通と貿易～6移民	○	○	
	5	1 結びつく世界と日本の開国	1.18世紀の東アジアにおける社会と経済 2.貿易が結んだ世界と日本	○	○	
5	1	(連休)				
	2		3.産業革命	○		○
	3					
	4		4.中国の開港と日本の開国	○	○	
	5	2 国民国家と明治維新	1.市民革命 2.国民国家とナショナリズム	○		○
6	1		3.明治維新	○	○	
	2	(前期中間考査)				
	3		4.日本の産業革命	○		
	4		5.帝国主義	○	○	○
	5		6.変容する東アジアの国際秩序 7.日露戦争と東アジアの変動	○	○	
7	1			○	○	○
	2	(学校祭)				
	3	II 国際秩序の変化や大衆化と私たち	1.第一次世界大戦の展開 2.ソヴィエト連邦の成立とアメリカ合衆国の台頭	○		
	4	3 総力戦と社会運動	3.ヴェルサイユ体制とワシントン体制	○	○	○
	5					
8	1	(夏季休業)				
	2					
	3					
	4		4.世界経済の変容と日本 5.アジアのナショナリズム	○	○	○
	5		6.大衆の政治参加 7.消費社会と大衆文化	○	○	
9	2	(前期期末考査)				
	3	4 経済危機と第二次世界大戦	1.世界恐慌の時代 2.ファシズムの伸長と共産主義	○		○
	4		3.日中戦争への道	○		○
	5		4.第二次世界大戦の展開 5.第二次世界大戦下の社会	○	○	
10	1		6.国際連合と国際経済体制	○	○	○
	2		7.占領と戦後改革	○		○
	3		8.冷戦の始まりと東アジア諸国の動向	○	○	
	4		9.日本の独立と日米安全保障条約	○	○	
11	1	III グローバル化と私たち	1.冷戦下の地域紛争と脱植民地化	○	○	○
	2	5 冷戦と世界経済	2.東西両陣営の動向と1960年代の社会 3.軍拡競争から緊張緩和へ	○	○	
	3	(後期中間考査)				
	4			○	○	
12	1		4.地域連携の形成と展開	○		○
	2		5.計画経済とその波及	○		○
	3		6.日本の高度経済成長	○	○	
	4		7.アジアの中の戦後日本	○	○	○
	5	(冬季休業)				
1	2					
	3	6 世界秩序の変容と日本	1.石油危機 2.アジア諸地域の経済発展	○	○	○
	4		3.市場開放と経済の自由化 4.情報技術革命とグローバリゼーション	○		
	5			○	○	○
2	1		5.冷戦の終結とソ連の崩壊	○		
	2		6.現代の東アジア	○	○	
	3		7.東南アジア・アフリカ・ラテンアメリカの民主化	○	○	○
	4			○		
3	1		8.地域統合の拡大と変容 9.地域紛争と国際社会	○	○	○
	2	(高校入試)				
	3		10.現代と私たち		○	○

令和7年度(2025年度) 北海道芽室高等学校 学習指導計画

教科名	数 学	学年	1 学年	単位数	3 単位
科目名	数学 I	担当者	石黒雄佑・高松朋亮		
使用教材	数学 I Standard（東京書籍）				
	新課程Standard Buddy WIDE 数学 I +A(東京書籍)				
学習目標	1 数を実数まで拡張することの意義を理解し、式の見方を豊かにするとともに、1次不等式について理解を深め、それらを活用できるようにする。集合についての基本的事項を理解し、統合的に見ることの有用性を認識し、論理的思考を伸ばすとともに、それらを命題などの考察に生かすことができる。				
	2 二次関数について理解し、関数を用いて数量の変化を表現することの有用性を認識するとともに、それを具体的な事象の考察や2次方程式・2次不等式を解くことなどに活用できるようにする。				
	3 直角三角形における三角比の意味、それを鈍角まで拡張する意義及び、図形の計量の基本的な性質について理解し、角の大きさなどを用いた計量の考えの有用性を認識するとともに、それらを具体的な事象の考察に活用できるようにする。				
	4 データの整理の仕方をいろいろ学び、それを基に具体的事象のデータの分析ができるようにする。				
学習方法	1 授業ではノートをきちんとまとめ、プリント等の配布物をきちんと提出し、積極的に授業に取り組むよう努力すること。				
	2 数学は積み重ねが大切な教科ですので、宿題＋小テストに毎回取り組み、副教材などで繰り返し復習し実力を高めていくこと。				
	3 長期休業中の課題で、それまで学習したことをしっかり復習すること。				
必ず取り組む最小目標					
実現したいと思う最大目標					
評価の方法 及び 評価基準 ルーブリック	次の3つの観点に基づき観点別に3段階A、B、Cで評価を行う。それらを総括して前期末・後期末に観点別に3段階A・B・Cで評価を行うとともに、5段階で評価を行う。また、それらを総合して学年末に観点別に3段階A・B・Cで評価を行うとともに、5段階で評定を行う。				
	観点	知識・技能	思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度
	評価方法	・定期考査, 課題 ・休み明けテスト ・小テスト, 単元テスト	・定期考査 ・課題の取り組み状況		・学習活動への取り組み状況 ・課題提出状況
	A	数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に深く理解している。事象を数学化したり, 数学的に解釈したり, 数学的に表現・処理したりする技能を十分身に付けている。	数学を活用して事象を論理的に考察する力, 事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力, 数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を十分身に付けている。		数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようしたり, 粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断したりしようとしている。問題解決の過程を振り返って考察を深めたり, 積極的に評価・改善しようしたりしている。
	B	数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。事象を数学化したり, 数学的に解釈したり, 数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。	数学を活用して事象を論理的に考察する力, 事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力, 数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身に付けている。		数学のよさを認識し, 数学を活用しようしたり, 数学的論拠に基づいて判断したりしようとしている。問題解決の過程を振り返って考察を深めたり, 評価・改善しようしたりしている。
	C	数学における基本的な概念や原理・法則を理解していない。事象を数学化したり, 数学的に解釈したり, 数学的に表現・処理したりすることができない。	数学を活用して事象を論理的に考察することができない。事象の本質や他の事象との関係を認識できない。数学的な表現を用いることができない。		数学のよさを認識しようとしせず、粘り強く考えたり数学的論拠に基づいて判断したりしようとししない。問題解決の過程を振り返って考察を深めたり, 評価・改善しようとししない。

年 間 計 画				評価の観点		
月	週	単 元	学 習 内 容	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
4	2	(入学式)				
	3	1章 数と式 1節 式の計算 1. 展開	様々な公式を、その目的に応じて多面的に捉えて利用することができる。	○		○
	4	2. 因数分解	因数分解の公式を理解し、活用することができる。	○	○	○
	5	〃	〃		○	○
5	1	(連休)				
	2	〃	特定の文字に着目するなど、工夫して公式を活用することができる。		○	○
	3	2節 実数 1. 実数	数に関する様々な用語の意味を理解し、それらの計算ができる。	○		○
	4	2. 根号を含む式の計算	分母の有理化などの計算をして、式の値を求めることができる。	○		
	5	3節 1次不等式 1. 不等式と1次不等式	不等式の意味を理解し、基本性質などを用いて解を求めることができる。	○		
6	1	(前期中間考査)				
	2	〃	不等式を解くことの意味を理解し、1次不等式を解くことができる。	○		
	3	2. 不等式の応用	具体的な問題の解決に1次不等式を活用することができる。		○	○
	4	2章 集合と論証 2節 命題と論証 1. 命題と条件	命題と条件、必要条件や十分条件の定義を学習し、概念を理解する。	○		○
7	1	〃	図表示による包含関係と関連付けて理解する。	○	○	
	2	(学校祭)				
	3	2. 論証	命題の逆・裏・対偶を理解し、それらを利用した証明法を学ぶ。	○		○
	4	3章 2次関数 1節 2次関数とそのグラフ 1. 2次関数	2次関数の意味やその表し方を理解し、適切な形に変形することができる。	○		○
	5					
8	1	(夏季休業)				
	2					
	3					
	4					
	5	〃	2次関数から必要な情報を読み取り、グラフを描くことができる。	○	○	
9	1	2. 2次関数の最大・最小	2次関数のグラフの意味を理解し、最大値や最小値に関する問題を解くことができる。	○	○	
	2	(前期期末考査)				
	3	3. 2次関数の決定	与えられた条件から、その2次関数を決定することができる。		○	○
	4	2節 2次方程式と2次不等式 1. 2次関数のグラフとx軸の共有点	2次方程式の解と、2次関数のグラフとx軸の共有点との関係を理解する。	○	○	
	5	2. 2次関数のグラフとx軸の共有点の個数	2次関数のグラフとx軸の共有点と判別式Dの符号との関係を理解する。	○	○	
10	1	3. 2次不等式	2次関数のグラフとx軸の共有点の関係から2次不等式の解を求める方法を理解する。	○		○
	2	〃	具体的な問題の解決に2次不等式を活用することができる。		○	○
	3	4章 図形と軽量 1節 鋭角の三角比 1. 直角三角形と三角比	三角比の意味を理解し、辺の比や長さをもとめることができる。	○		○
	4	〃	三角比を具体的な問題の解決に活用することができる。		○	○
	5	2. 三角比の相互関係	相互関係を理解し、1つの三角比から他の2つの三角比の値を求めることができる。	○	○	
11	1	2節 三角比の拡張 1. 三角比と座標	角度を拡張し、座標平面における考え方に応用することができる。		○	○
	2	2. 三角比の性質	鈍角まで拡張した場合の三角比の相互関係について理解を深める。	○	○	
	3	〃	拡張した場合の関係式を活用して問題を解くことができる。		○	○
	4	(後期中間考査)				
	5	3節 三角形への応用 1. 正弦定理・余弦定理・面積の公式	公式の使い方を理解し、図形の角度や辺の長さを求めることができる。	○	○	
12	1	〃	条件に応じて、必要な公式を適用して三角形の面積を求めることができる。		○	○
	2	〃	条件に応じて、必要な公式を適用して三角形の面積を求めることができる。		○	○
	3	〃	〃		○	○
	4					
	5	(冬季休業)				
1	1					
	2					
	3	〃	〃		○	○
	4	2. 空間図形の計量	空間図形に応用して、立体的な長さを求めることができる。	○	○	
	5	5章 データの分析 1節 データの分析 1. データの散	偏差、分散、標準偏差を理解し、その値を求めることができる。	○		
2	1	2. データの相関	散布図及び相関関係について理解し、相関係数の求め方を理解する。	○	○	
	2	(後期期末考査)				
	3					
	4	2節 データの分析の応用 1. データの分析を利用した問題解決	身の回りの問題を解決するプロセスについて理解する。	○		○
3	1	(高校入試)				
	2	〃	〃	○		○
	3	〃	〃	○		○

令和7年度(2025年度) 北海道芽室高等学校 学習指導計画

教科名	数 学		学年	1 学年	単位数	2 単位
科目名	数学A		担当者	石黒雄佑・高松朋亮		
使用教材	数学A Standard （東京書籍）					
	新課程Standard Buddy WIDE 数学 I +A(東京書籍)					
学習目標	1 具体的な事象の考察などを通して、順列・組合せや確率について理解し、不確定な事象を抽象的にとらえることの有用性を認識するとともに、事象を数学的に考察し処理できるようにする。					
	2 三角形や円などの基本的な図形の性質についての理解を深め、図形の見方を豊かにするとともに、図形の性質を論理的に考察し処理できるようにする。					
	3 数量や図形に関する概念などと人間の活動との関わりについて理解する。 数学史的な話題，数理的なゲームやパズルなどを通して，数学と文化との関わりについて理解する。					
学習方法	1 授業ではノートをきちんとまとめ、プリント等の配布物をきちんと提出し、積極的に授業に取り組むよう努力すること。					
	2 数学は積み重ねが大切な教科ですので、宿題＋小テストに毎回取り組み、副教材などで繰り返し復習し実力を高めていくこと。					
	3 長期休業中の課題で、それまで学習したことをしっかり復習すること。					
必ず取り組む 最小目標						
実現したいと 思う最大目標						
評価の方法 及び 評価基準 ルーブリック	次の3つの観点に基づき観点別に3段階A、B、Cで評価を行う。それらを総括して前期末・後期末に観点別に3段階A・B・Cで評価を行うとともに、5段階で評価を行う。また、それらを総合して学年末に観点別に3段階A・B・Cで評価を行うとともに、5段階で評定を行う。					
	観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度
	評価 方法	・定期考査，課題 ・休み明けテスト ・小テスト,単元テスト		・定期考査 ・課題の取り組み状況		・学習活動への取り組み状況 ・課題提出状況
	A	数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に深く理解している。事象を数学化したり,数学的に解釈したり,数学的に表現・処理したりする技能を十分身に付けている。		数学を活用して事象を論理的に考察する力,事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力,数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を十分身に付けている。		数学のよさを認識し積極的に数学を積極的に活用しようとしたり,粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断したりしようとしている。問題解決の過程を振り返って考察を深めたり,積極的に評価・改善しようとしたりしている。
	B	数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。事象を数学化したり,数学的に解釈したり,数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。		数学を活用して事象を論理的に考察する力,事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力,数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身に付けている。		数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとしたり,粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断したりしようとしている。問題解決の過程を振り返って考察を深めたり,評価・改善しようとしたりしている。
	C	数学における基本的な概念や原理・法則を理解していない。事象を数学化したり,数学的に解釈したり,数学的に表現・処理したりすることができない。		数学を活用して事象を論理的に考察することができない。事象の本質や他の事象との関係を認識できない。数学的な表現を用いることができない。		数学のよさを認識しようとしせず,粘り強く考えたり数学的論拠に基づいて判断したりしようしない。問題解決の過程を振り返って考察を深めたり,評価・改善しようしない。

年 間 計 画				評価の観点		
月	週	単 元	学 習 内 容	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
4	2	(入学式)				
	3	資料 集合	集合の考え方、表し方、記号の意味を理解する。	○		
	4	1章場合の数と確率 1節集合と場合の数	ベン図を利用して集合を図示し要素の個数を考察する。	○	○	
	5	1. 数え上げの原則と集合の要素の個数	具体的な日常事象に対して集合を考える。			○
5	1	(連休)				
	2	2. 順列	順列の公式を理解し利用することができる。	○		
	3	〃	〃	○		
	4	〃	円順列・重複順列の公式を理解し利用することができる。	○	○	
	5	〃	〃			○
6	1	(前期中間考査)		○	○	
	2	3. 組合せ	組合せの公式を理解し、利用することができる。	○		○
	3	〃	〃			○
	4	組合せの応用(組み分け)	組分けの問題の意味を理解し、問題を解くことができる。	○	○	
	5	〃	〃			○
7	1	組合せの応用(同じものを含む順列)	同じものを含む順列の総数を求めることができる。	○	○	
	2	〃	〃			○
	3	組合せの応用(重複組み合わせ)	重複組合せの意味を理解し、問題を解くことができる。	○	○	
	4	2節確率とその基本性質 1. 事象と確率	集合の性質を用いて、確率の性質を一般的に考察することができる	○		
	5					
8	1	(夏季休業)				
	2					
	3					
	4					
	5	2. 確率の基本性質	積事象・和事象, 排反事象, 確率の基本性質, 確率の加法定理を理解し利用することができる。	○		
9	2	(前期期末考査)		○	○	
	3	2. 確率の基本性質	和事象の確率, 余事象とその確率を理解し利用することができる。		○	
	4	3節いろいろな確率 1. 独立な試行の確率	独立な試行の確率について, 具体例を通してその意味を理解し利用することができる。			○
	5	2. 反復試行の確率	反復試行の確率を理解し, 簡単な場合の反復試行の確率を求めることができる。	○		
10	1	〃	〃			○
	2	3. 条件付き確率	条件付き確率の意味と確率の乗法定理を理解し, それらを用いて具体的な事象を数学的に考察することができる。			○
	3	4. 期待値	期待値について理解し, 期待値を求めたり, 期待値を意思決定に活用したりすることができる。	○		
	4	〃	〃			○
11	1	2章図形の性質 1節 1. 三角形と比	三角形の内角の二等分線と比, 外角の二等分線と比などについて理解し, それらを用いて線分の長さを求めることができる。	○		
	2	〃	〃			○
	3	練習問題				○
	4	(後期中間考査)		○	○	
12	2	2. 三角形の外心・内心・重心	三角形の外心、内心、重心の定義や性質を理解する。	○		○
	3	〃	〃	○		○
	4	練習問題				○
	5					
		(冬季休業)				
1	1					
	2					
	3	3. 三角形の比の定理	チェバの定理, メネラウスの定理を理解し, それを活用していろいろな辺の長さや比を求めることができる。	○	○	
	4	〃	〃	○		○
2	5	2節円の性質 1. 円の性質	円周角の定理と定理の逆について振り返る。円に内接する四角形の定理を理解する。	○		○
	1	〃	〃	○		○
	2	(後期期末考査)				
	3	2節円の性質 1. 円の性質	四角形が円に内接する条件の定理について理解する。	○		
	4	〃	接線と弦のつくる角の定理を理解し, それを利用して, 角の大きさを求めることができる。	○		○
3	1	2. 方べきの定理	方べきの定理が成り立つことを理解するとともに, それを利用して線分の長さを求めることができる。	○		
	2	(高校入試)				
	3	3. 2つの円	2つの円の位置関係を理解し, そこに現れる図形の性質を利用して線分の長さを求めることができる。	○	○	

令和7年度(2025年度) 北海道芽室高等学校 学習指導計画

教科名	理科	学年	1 学年	単位数	2 単位
科目名	化学基礎	担当者	高橋 玲美		
使用教材	高等学校 新化学基礎(第一学習社)				
	ネオパルノート化学基礎				
学習目標	1 日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。				
	2 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。				
	3 物質とその変化に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。				
学習方法	1 授業前に教科書を読み、重要語句・中学校での既習事項を確認する。				
	2 授業では、板書を写すことにとどまらず、計算過程や式の変形の過程を自分自身で繰り返し、理解を深める。				
	3 問題集を解き、理解度を確認する。小テストごとに復習する。復習なくして、知識や問題を解く力の定着は見込めない。プリントの発展的な問題にも積極的に取り組もう。				
必ず取り組む最小目標					
実現したいと思う最大目標					
評価の方法 及び 評価基準 ルーブリック	次の3つの観点に基づき観点別に3段階A、B、Cで評価を行う。それらを総括して前期末・後期末に観点別に3段階A・B・Cで評価を行うとともに、5段階で評価を行う。また、それらを総合して学年末に観点別に3段階A・B・Cで評価を行うとともに、5段階で評定を行う。				
	観点	知識・技能	思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度
	評価方法	・定期考査, 課題 ・小テスト, 単元テスト	・定期考査 ・課題の取り組み状況		・学習活動への取り組み状況 ・課題提出状況
	A	自然の事物・現象についての概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの技能を身に付けている	自然の事物・現象から問題を見いだし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究している。		自然の事物・現象に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究している。
	B	自然の事物・現象についての概念や原理・法則などを理解している。あるいは、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの技能を身に付けている	自然の事物・現象から問題を見いだしている。または、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究している。		自然の事物・現象に主体的に関わっている。あるいは、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。
	C	自然の事物・現象についての概念や原理・法則などを理解していない。科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの技能を身に付けていない。	自然の事物・現象から問題を見いだせない。見通しをもって観察、実験などを行っていない。得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究していない。		自然の事物・現象に主体的に関わっていない。見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしていない。

年 間 計 画				評価の観点		
月	週	単 元	学 習 内 容	知 識・技 能	思 考・判 断・表 現	主 体 的 に 学 習 に 取 り 組 む 態 度
4	2	(入学式)				
	3	序章	(1) 化学が物質やその変化を対象とする学問であることを理解している。	○		
	3		(2) 物質の性質を調べる活動を通して、科学的に探究する方法を身に付けている。	○		
	4		(3) 物質の性質を調べる活動において、科学的に探究する方法を提案したり、実験結果を科学的に判断したりすることができる。		○	
	4		(4) 日常生活や社会を支える身近な物質に注目し、科学に対する興味・関心を高め、意欲的に取り組もうとする。			○
5	5		(5) 学習課題に対して積極的に観察・実験を行い、意欲的に探究しようとする。			○
	1	(連休)				
	2	1章1節①物質の分離(1)	(1) 物質が混合物と純物質、および単体と化合物に分けられることを理解し、それらの違いを理解している。	○		
	2	②物質の分離(2)	(2) 混合物の分離や成分元素の確認などの実験を理解し、物質を探究する具体的な方法を身に付けている。	○		
	3	③物質を構成する元素	(3) 粒子の熱運動と粒子間に働く力との関係によって、状態が変化することを理解している。	○		
6	3	④元素の確認	(4) 原子の構造および陽子、中性子、電子の性質を理解し、知識を身に付けている。	○		
	4	⑤物質の三態	(5) 原子の電子配置を理解し、原子番号20番までの代表的な典型元素について、簡単なモデルで表すことができる。	○		
	4	高体連				
	5	⑥原子のなりたち	(6) 原子の電子配置と周期表の族や周期との関係について理解している。		○	
	1	⑦同位体とその利用	(7) 観察・実験を通して、混合物、純物質、単体、化合物について考察し、それぞれの特徴を説明できる。		○	
7	2	⑧原子の電子配置	(8) 粒子の熱運動と温度の関係や、粒子の熱運動と粒子間に働く力との関係をもとに、温度と物質の状態変化の関係を的確に表現することができる。		○	
	2	(前期中間考査)				
	3	⑨元素の周期律と周期表	(9) 原子の電子配置と周期表の族や周期との関係を理解し、周期性が現れる理由を的確に表現することができる。		○	
	3		(10) 観察・実験の過程から、自らの考えを導き出した報告書を作成したり、発表したりできる。		○	
	4		(11) 物質に関心をもち、物質の取り扱い方を理解しようとする。			○
8	4		(12) 物質の構造や性質に関する事象に関心をもち、意欲的に物質を探究しようとする。			○
	5	2節①イオン(1)	(1) イオンの生成を電子配置と関連付けて理解し、イオンの表し方やイオン化エネルギーについての知識を身に付けている。	○		○
	5	②イオン(2)	(2) イオン結合やイオン結合でできた物質の性質を理解し、知識を身に付けている。	○		○
	1	③イオン結合	(3) 共有結合を電子配置と関連付けて理解し、共有結合の表し方や配位結合についての知識を身に付けている。	○		
	2	(学校祭)				
9	3	④イオンからなる物質	(4) 電気陰性度や結合の極性を理解し、分子の極性についての知識を身に付けている。	○		
	4	⑤共有結合(1)	(5) 共有結合でできた物質の性質を理解し、知識を身に付けている。	○		
	5					
	1	(夏季休業)				
	2					
10	3					
	4	⑥共有結合(2)	(6) 金属結合や金属結晶の性質について理解し、知識を身に付けている。	○		
	4	⑦分子の極性	(7) イオン結晶の性質をイオンやイオン結合にもとづいて説明できる。		○	
	1	⑧分子間に働く力	(8) 分子の極性を電気陰性度や結合の極性、分子の形をもとに総合的に判断できる。		○	
	1	⑩共有結合の結晶	(10) 金属結晶の性質を金属結合にもとづいて的確に表現できる。		○	
11	2	(前期期末考査)				
	2	⑪金属結合と金属結晶	(11) 物質の性質を調べる実験を通して、化学結合と結晶の性質の関係を考察できる。		○	
	2		(12) 観察・実験の過程から、自らの考えを導き出した報告書を作成したり、発表したりできる。		○	
	2		(13) 物質に関心をもち、物質の取り扱い方を理解しようとする。			○
	3		(14) 物質の構造や性質に関する事象に関心をもち、意欲的に物質を探究しようとする。			○
12	3		(15) 物質が原子・分子・イオンなどの構成粒子から成り立っていることを理解しようとする。			○
	4	2章1節①原子量	(1) 物質の構成粒子の質量の表し方として、原子量・分子量・式量を理解している。	○		
	5	②分子量・式量	(2) 物質量が粒子の数にもとづく量であることを理解し、物質量と質量、気体の体積との関係も理解している。	○		
	5	③物質量と粒子の数	(3) 物質量を介して、物質の質量や気体の体積を相互に変換できる。	○		
	2	④物質量と質量	(4) 水溶液の濃度をモル濃度を用いて表したり、濃度のわかっている水溶液中の溶質の物質量を計算によって求めることができる。	○		
13	2	⑤物質量と気体の体積	(5) 化学変化と物理変化の違いを理解し、化学反応を化学反応式を用いて表すことができる。	○		
	3	⑥溶解と濃度	(6) 物質量の概念で化学変化の量的関係を把握する方法を理解し、知識を身に付けている。	○		
	4	⑦化学反応式(1)	(7) 化学変化では、一定の量的関係が成り立つことを理解し、化学反応式をもとに物質の量的関係を判断できる。		○	
	4	⑧化学反応式(2)	(8) 観察・実験の過程から、自らの考えを導き出した報告書を作成したり、発表したりできる。		○	
	5	⑨化学反応の量的関係	(9) 実験で得られたデータをグラフ化するなどの処理を行い、結果を化学的に考察することができる。		○	
14	5		(10) 化学反応の量的関係の実験から、自らの考えを導き出した報告書を作成したり、発表したりできる。		○	
	1		(11) 化学変化の量的関係を物質量と関連付けて考察しようとする。			○
	2	2節①酸と塩基	(1) 酸と塩基の定義や分類を理解し、酸と塩基を価数や強弱にもとづいて分類することができる。	○		
	2	②酸・塩基の強弱	(2) 水溶液の性質(酸性・中性・塩基性)と水素イオン濃度やpHとの関係を理解し、知識を身に付けている。	○		
	3	③水素イオン濃度とpH	(3) 中和反応について理解し、塩のなりたちや塩の水溶液の性質を理解している。	○		
15	3	④pHの測定	(4) 中和反応に関与する物質の量的関係を理解し、中和反応における酸と塩基の量的関係を計算によって求めることができる。	○		
	4	⑤中和と塩	(5) 中和滴定の操作や中和滴定曲線を理解し、実験器具の適切な取り扱いやグラフの見方などの知識を身に付けている。	○		
	4	⑥中和の量的関係	(6) 酸・塩基の観察、実験から共通性を見だし、酸・塩基の定義を理解し、日常生活と関連付けて考察できる。		○	
	4	(後期中間考査)				
	2	⑦中和滴定曲線	(8) 中和滴定の実験を通して、それぞれの操作がどのような意味をもっているのかを理解し、実験結果に対してどのような影響があるかを考察できる。		○	
16	2		(9) 酸、塩基や中和反応に関心をもち、それらを日常生活に関連付けて、意欲的に探究しようとする。			○
	3		(10) 酸と塩基の反応の量的関係を物質量と関連付けて考察しようとする。			○
	3	3節①酸化と還元	(1) 酸化・還元の定義を理解し、知識を身に付けている。	○		
	4	②酸化数	(2) 酸化還元反応を酸化数の増減によって判断することができる。	○		
	4	③酸化剤と還元剤(1)	(3) 酸化剤、還元剤のはたらきを理解し、半反応式をもとに酸化還元反応を組み立てることができる。	○		
17	5	(冬季休業)				
	2					
	3	④酸化剤と還元剤(2)	(4) 酸化還元反応の量的関係を理解している。	○		
	3	⑤金属のイオン化傾向	(5) 金属のイオン化傾向や金属の反応性を理解し、知識を身に付けている。	○		
	4	⑥金属の反応性	(6) 酸化還元反応の利用例として、電池や電気分解などがあることを理解し、電池の構成などの基本的な知識を身に付けている。	○		
18	4	⑦電池	(7) 代表的な酸化剤・還元剤の観察から電子の授受としての規則性を見だし、自らの考えで表現できる。		○	
	5	⑧電気分解	(8) 観察、実験を通して、酸化・還元の定義と、酸化数の定義の有効性を理解し、それをもとに事象・現象の中に共通性を見出し、酸化還元反応として論理的に考察できる。		○	
	1		(9) 燃焼、金属の溶解や腐食などの反応に興味をもち、電子の授受という観点から、それらを意欲的に探究しようとする。			○
	2		(10) 酸化還元反応の量的関係を物質量と関連付けて考察しようとする。			○
	3		(11) 学習課題に対して積極的に観察・実験を行い、意欲的に探究しようとする。			○
19	3	(後期中間考査)				
	4	終章・水道水について考えよう	(1) 「化学基礎」で学んだ事柄が、日常生活や社会を支える科学技術と結びついていることを理解している。	○		
	1	(高校入試)				
	2	・食品の保存について考えよう	(2) 「化学基礎」で学んだ事柄が日常生活や社会でどのようにいわれているかを教科書の題材以外にも範囲を広げて考察することができる。		○	
	3	・洗剤について考えよう	(3) 「化学基礎」で学んだ事柄が日常生活や社会の中でどのようにいわれているかに注目し、意欲的に探究しようとする。			○
20	4	・リサイクルについて考えよう	(4) 学習課題に対して積極的に観察・実験を行い、意欲的に探究しようとする。			○

令和7年度(2025年度) 北海道芽室高等学校 学習指導計画

教科名	理科		学年	1 学年	単位数	2 単位
科目名	生物基礎		担当者	皆川 洋		
使用教材	生物基礎(実教出版)					
	アクセスノート 生物基礎(実教出版)					
学習目標	1 日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生物現象について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付ける。					
	2 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。					
	3 生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探求しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う。					
学習方法	1 授業に集中し、板書を書き写すのみならず、説明をよく聞き、内容を理解する。					
	2 小テストや定期考査に向けて、家庭学習に取り組み、基礎知識を固める。					
	3 問題集などでの復習に努め、より多様な観点から、生物の成り立ちや制御のしくみ、行動等を理解する。					
必ず取り組む最小目標	授業ノートは必ず自分でその時間内に書くこと。休んだ場合は速やかに人に借りて写しておくこと。					
実現したいと思う最大目標	地球を守る意識を持つ					
評価の方法 及び 評価基準 ルーブリック	次の3つの観点に基づき観点別に3段階A、B、Cで評価を行う。それらを総括して前期末・後期末に観点別に3段階A・B・Cで評価を行うとともに、5段階で評価を行う。また、それらを総合して学年末に観点別に3段階A・B・Cで評価を行うとともに、5段階で評定を行う。					
	観点	知識・技能	思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
	評価方法	小テスト、定期考査、実験、他	定期考査、課題プリント、実験、プレゼンテーション、他		授業プリント、宿題・課題、ペアワーク・グループワーク、調べ学習、実験、定期考査	
	A	日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生物現象についての観察、実験などを行うことを通して、生物や生物現象に関する基本的な概念や原理・法則を理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能が身に付いている。	生物や生物現象を対象に、探究の過程を通して、問題を見いだすための観察、情報の収集、仮説の設定、実験の計画、実験による検証、調査、データの分析・解釈、推論などの探究の方法が習得できている。また、報告書を作成したり発表したりして、科学的に探究する力が育まれている。		生物や生物現象に対して主体的に関わり、それらに対する気付きから課題を設定し解決しようとする態度など、科学的に探究しようとする態度が養われている。その際、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度が養われている。	
	B	日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生物現象についての観察、実験などを行うことを通して、生物や生物現象に関する基本的な概念や原理・法則を理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能がおおむね身に付いている。	生物や生物現象を対象に、探究の過程を通して、問題を見いだすための観察、情報の収集、仮説の設定、実験の計画、実験による検証、調査、データの分析・解釈、推論などの探究の方法が習得できている。また、報告書を作成したり発表したりして、科学的に探究する力がおおむね育まれている。		生物や生物現象に対して主体的に関わり、それらに対する気付きから課題を設定し解決しようとする態度など、科学的に探究しようとする態度がおおむね養われている。その際、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度がおおむね養われている。	
	C	日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生物現象についての観察、実験などを行うことを通して、生物や生物現象に関する基本的な概念や原理・法則を理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能が身に付いていない。	生物や生物現象を対象に、探究の過程を通して、問題を見いだすための観察、情報の収集、仮説の設定、実験の計画、実験による検証、調査、データの分析・解釈、推論などの探究の方法が習得できていない。また、報告書を作成したり発表したりして、科学的に探究する力が育まれていない。		生物や生物現象に対して主体的に関わり、それらに対する気付きから課題を設定し解決しようとする態度など、科学的に探究しようとする態度が養われていない。その際、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度が養われていない。	

年 間 計 画				評価の観点		
月	週	単 元	学 習 内 容	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
4	2	(入学式)				
	3	生物の特徴 生物の多様性と共通性	生物の多様性とその由来	○	○	○
	4		細胞	○	○	○
	5		細胞	○	○	○
5	1	(連休)				
	2	生物とエネルギー	生命活動とエネルギー	○	○	○
	3		酵素と代謝	○	○	○
	4		光合成と呼吸	○	○	○
	5		光合成と呼吸	○	○	○
6	2	(前期中間考査)				
	3	遺伝子とその働き 遺伝情報とDNA	遺伝子の本体	○	○	○
	4		遺伝子の本体	○	○	○
	5		DNAの構造	○	○	○
7	1		DNAの複製と分配	○	○	○
	2	(学校祭)				
	3		DNAの複製と分配	○	○	○
	4	遺伝情報とタンパク質の合成	遺伝子とタンパク質	○	○	○
	5					
8	1	(夏季休業)				
	2					
	3					
	4					
9	1		タンパク質の合成	○	○	○
	2	(前期期末考査)				
	3		遺伝子の発現	○	○	○
	4		ゲノムと遺伝子	○	○	○
	5	ヒトからだの調節 体内環境	体内環境と恒常性	○	○	○
10	1		体液とその働き	○	○	○
	2		体液の調節	○	○	○
	3	体内環境の維持のしくみ	情報伝達	○	○	○
	4		自律神経	○	○	○
	5		内分泌腺	○	○	○
11	1		内分泌腺	○	○	○
	2		内分泌腺と自律神経	○	○	○
	3	免疫	生体防御と免疫	○	○	○
	4	(後期中間考査)				
	5		自然免疫のしくみ	○	○	○
12	1		獲得免疫のしくみ	○	○	○
	2		免疫疾患	○	○	○
	3	生物の多様性と生態系 植生と遷移	生態系	○	○	○
	4					
	5	(冬季休業)				
1	1					
	2					
	3		植生	○	○	○
	4		繊維	○	○	○
2	1	植生とバイオーム	世界のバイオーム	○	○	○
	2		日本のバイオーム	○	○	○
	3	(後期期末考査)				
	4	生態系と生物の多様性	生物の多様性とその由来		○	○
3	1	(高校入試)				
	2	生態系のバランスと保全	生物同士のつながり		○	○
	3		生態系のバランス		○	○

令和7年度(2025年度) 北海道芽室高等学校 学習指導計画

教科名	保健体育		学年	1 学年	単位数	1 単位
科目名	保健		担当者	豊 田 裕 子		
使用教材	大修館書店 現代高等保健体育(保体701)					
学習目標	1	個人及び社会生活における健康・安全について理解を深め、技能を身に付けるようにする。				
	2	健康についての課題を発見し、解決に向け計画的に行動できるような思考・判断できる力を養う。				
	3	健康について、課題の解決を合理的にするため、状況に応じ他者に伝える力を養う。				
	4	生涯を通じて、健康の保持増進や環境づくりを目指し、活力ある生活を営む態度を養う。				
学習方法	1	自分自身の健康管理について理解し、課題発見と解決に向け主体的に取り組む。				
	2	時間毎の口頭質問や、単元毎の小テストを行うことで、理解を深められるよう積極的に取り組む。				
	3	ペアワークやグループワークにより、言語活動が活発になるよう積極的に取り組む。				
必ず取り組む最小目標						
実現したいと思う最大目標						
評価の方法 及び 評価基準 ルーブリック	学期末・学年末の学業成績の評価・評定は学習指導要領の各教科の評価の観点及びその趣旨や特性を踏まえて、観点別評価をし、総合的に判断して行う。 ①評価の主な観点(3観点)は、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」とする。 ②前・後期末の成績は、3観点評価及び5段階評価を行う。 ③学年末の成績は、その年度分を総合的に評価し、3観点評価及び5段階評定を行う。					
	観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度
	評価方法	・定期考査, 課題 ・小テスト		・定期考査 ・課題の取り組み状況		・学習活動への取り組み状況 ・課題提出状況
	A	・現代社会における健康や、安全に生活を送るために、必要な言語や知識などについて深く理解し、言ったり書いたりすることができる。		・現代社会における健康や、安全に生活を送るために、原則や概念を基に整理したり、自他や社会の課題を発見し、その解決方法や選択した理由などを話し合ったり、記述するなど筋道を立てて説明している。		・現代社会における健康や、安全に生活を送るために、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組んでいる。
	B	・現代社会における健康や、安全に生活を送るために、必要な言語や知識などについて理解し、言ったり書いたりすることができる。		・現代社会における健康や、安全に生活を送るために、原則や概念を基に整理したり、自他や社会の課題を発見し、その解決方法や選択した理由などを話し合ったり、記述するなど概ね筋道を立てて説明している。		・現代社会における健康や、安全に生活を送るために、課題の解決に向けた学習に取り組もうとしている。
	C	・現代社会における健康や、安全に生活を送るために、必要な言語や知識などについて理解せず、言ったり書いたりすることができない。		・現代社会における健康や、安全に生活を送るために、原則や概念を基に整理できず、自他や社会の課題を発見したり、その解決方法や選択した理由などを話し合ったり、記述するなど筋道を立てて説明できない。		・現代社会における健康や、安全に生活を送るために、課題の解決に向けた学習に取り組もうとしていない。

			年 間 計 画	評価の観点		
月	週	単 元	学 習 内 容	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
4	2	(入学式)				
	3	オリエンテーション	授業についての説明			○
	4	健康の考え方と成り立ち	健康の考え方や要因について		○	
	5	私たちの健康のすがた	健康水準の変化と背景について	○		
5	1	(連休)				
	2	私たちの健康のすがた	現在の健康問題について	○		
	3	生活習慣病の予防と回復	種類と要因について		○	
	4	生活習慣病の予防と回復	一次予防、二次予防について	○		
	5	がんの原因と予防	種類と要因について		○	
6	1	(前期中間考査)				
	2	がんの原因と予防	一次予防、二次予防について	○		
	3	がんの治療と回復	治療法や緩和ケアについて		○	
	4	がんの治療と回復	社会的な対策について	○		○
	5	運動と健康	関係性について	○		
7	1	運動と健康	関係性について	○		
	2	(学校祭)				
	3	食事と健康	関係性について	○		
	4	休養・睡眠と健康	関係性について	○		
	5					
8	1	(夏季休業)				
	2					
	3					
	4					
	5	喫煙と健康	害や対策について	○		
9	1	飲酒と健康	害や対策について	○		
	2	(前期期末考査)				
	3	薬物乱用と健康	健康や社会に及ぼす影響について		○	
	4	薬物乱用と健康	対策について	○		
	5	精神疾患の特徴	発病の要因と症状について		○	
10	1	精神疾患の特徴	精神保健の課題について	○		
	2	精神疾患の予防	早期発見のために必要なことについて	○		○
	3	精神疾患からの回復	適切な治療と社会環境について	○		
	4	応急手当の意義とその基本	意義と、傷病者発見時のポイントについて		○	
11	2	日常的な応急手当	熱中症などの手当について		○	
	3	心肺蘇生法	心肺蘇生法の手順について			○
	4	(後期中間考査)				
	5	心肺蘇生法	心肺蘇生法の手順について			○
12	2	現代の感染症	感染症とは何かについて		○	
	3	感染症の予防	3原則と対策について		○	
	4	性感染症・エイズとその予防	ほかの感染症との違いについて		○	
	5					
1	1	(冬季休業)				
	2					
	3					
	4					
	5	性感染症・エイズとその予防	対策について	○		
2		健康に関する意思決定・行動選択	影響を与える要因について		○	
	1	健康に関する環境づくり	ヘルスプロモーションとの関わりについて	○		
	2	(後期期末考査)				
	3					
	4	事故の現状と発生要因	実態と被害、要因について		○	
3	1	(高校入試)				
	2	安全な社会の形成	必要な行動、環境整備について		○	
	3	交通における安全	責任について	○		

令和7年度(2025年度) 北海道芽室高等学校 学習指導計画

教科名	保健体育		学年	1 学年	単位数	2 単位
科目名	体育		担当者	市山貴一・加藤武志・豊田裕子・奥 恭平		
使用教材						
学習目標	1 運動の多様性・体力の必要性を理解し、それらの技能を身に付け、活用する力を養う。					
	2 課題の発見・解決のために思考、判断するとともに、それを他者に伝える力を養う。					
	3 公正・協力・責任・参画などの意欲を育て、生涯にわたり継続的に運動に親しむ資質・能力を養う。					
学習方法	1 積極的に授業に参加し、その種目の知識や技能、そして安全について理解する。					
	2 自己やチームについて課題の発見と解決を目指し、周囲とコミュニケーションをとりながら練習や試合の工夫に取り組む。					
	3 ペアワークやグループワークにより、身体活動と共に、言語活動が活発になるよう積極的に取り組む。					
必ず取り組む最小目標						
実現したいと思う最大目標						
評価の方法 及び	学期末・学年末の学業成績の評価・評定は学習指導要領の各教科の評価の観点及びその趣旨や特性を踏まえて、観点別評価をし、総合的に判断して行う。 ①評価の主な観点(3観点)は、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」とする。					
	②前・後期末の成績は、3観点評価及び5段階評価を行う。 ③学年末の成績は、その年度分を総合的に評価し、3観点評価及び5段階評定を行う。					
評価基準 ルーブリック	観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度
	評価方法	・技能テスト ・ルールテスト ・観察		・ワークシート ・グループ活動の取り組み状況		・学習活動への取り組み状況
		評価基準については別紙参照				

評価基準		知識	技能	思考・判断	表現	主体性
5	A	①技術・戦術の名称を教えられるレベル ②ルールが教えられる主審レベル	①とても技能が高く、求めた課題ができる ・連携して得点を奪える・守備ができる ・仲間がプレイしやすい技能レベル ②各種目に必要な体力が身についている	①自分、他者、チームの良い点や改善点を発見できる ②課題の解決方法を具体的に言える ③楽しむための方法を見つけることができる ④拍手したくなるプレーをする	①成果や改善点を他者に伝えることができる ②個性豊かユニーク	①自らの意思で積極的かつ正確に動く ②助け合う教え合う ③諦めずに取り組んでいる。
4	A・B	①技術・戦術を理解している ②ルールの理解をしている副審レベル	①技能が高く、求めた課題が形になっている ・各種目の技能を試合で発揮できる ・動きながらプレーできる ②各種目に必要な体力が概ね身についている	①自分の良い点や改善点を発見できる ②良い点や課題を見つけることができる ③良い点や課題を意識して動くことができる ④プレーに関わろうとする意欲が高い	①作戦を話し合うことができる ②一生懸命だが単純 一生懸命ではないがユニーク	①自らの意思で動く ②指示されたことは正確に動く ③積極的に準備・体操 ④安全確保できる ⑤興味関心のあるものの取り組み状況が良好。
3	B	①技術・戦術理解が不十分 ②得点係レベル	・技能はやや劣るが一生懸命で求めた課題は概ねできる ・練習で各種目の技能を発揮できる	①指示されたことに対し課題を達成しようとしている ②流れに合わすことができる。 ③自身の取り組みについて振り返ることができる	①作戦を話し合いに参加できる ②まねる	①指示されたら動く指示通り行動できる。 ②フェアプレー
2	B・C	①技術・戦術理解はほとんどない	①求めた課題ができることもある 基本的な技能が不十分 ②動けない	①指示された課題のみ取り組んでいる ②課題を意識しない。 ③プレー等に関わろうとする意欲が低い	①話し合いに参加できない ②模倣もできない	①人任せ ②指導者が不安になり確認を求める
1	C	①まったく理解していない	①求めた課題ができない。	①考えて取り組んでいない ②課題を見つけることができない。	①取り組み内容不十分	①取り組み内容不十分 ②指示を聞かない。 ③スポーツマンシップに反するプレー

年 間 計 画				評価の観点		
月	週	単 元	学 習 内 容	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
4	2	(入学式)				
	3	オリエンテーション	授業についての説明			○
	4	体づくり運動、体育理論	集団行動、体ほぐしの運動、実生活に生かす運動の計画、器械運動、長距離走			○
	5	体づくり運動、体育理論	各種体ほぐしの運動、実生活に生かす運動の計画、器械運動、長距離走			○
5	1	(連休)				
	2	体づくり運動、新体力テスト	長距離、新体力テスト(外種目)		○	
	3	体育理論			○	
	4	I 期	男子:サッカー 女子:ソフトボール/バスケットボール			○
	5	I 期	〃			○
6	1	(前期中間考査)				
	2	I 期	〃		○	
	3	I 期	〃		○	
	4	I 期	〃	○	○	
7	1	II 期	男子:バスケットボール 女子:ソフトテニス、サッカー			○
	2	(学校祭)				
	3	II 期	〃		○	
	4	II 期	〃		○	○
	5					
8	1	(夏季休業)				
	2					
	3					
	4					
	5	II 期	〃	○	○	
9	1	II 期	〃	○	○	
	2	(前期期末考査)				
	3	体育大会練習			○	○
	4	体育大会練習			○	○
	5	体育理論			○	○
10	1	III 期	バレーボール/ダンス(男女共修)			○
	2	III 期	〃		○	○
	3	III 期	〃	○	○	
	4	III 期	〃		○	○
	5	III 期	〃	○	○	
11	1	体育理論		○		
	2	体づくり運動	長距離走		○	○
	3	新体力テスト	室内種目	○		
	4	(後期中間考査)				
	5	IV 期	バドミントン/卓球(男女共修)		○	
12	1	IV 期	〃		○	○
	2	IV 期	〃		○	
	3	体育理論	スキー授業オリエンテーション	○		○
	4	(冬季休業)				
	5					
1	1					
	2					
	3	IV 期	〃		○	○
	4	スキー授業	スキー学習			○
	5	スキー授業	〃			○
2	1	スキー授業	〃		○	
	2	(後期期末考査)				
	3					
	4	IV 期	〃	○		
3	1	(高校入試)				
	2	IV 期・体育理論	〃		○	○
	3	IV 期・まとめ	〃			○

令和7年度(2025年度) 北海道芽室高等学校 学習指導計画

教科名	芸術科(音楽)		学年	1 学年	単位数	2 単位
科目名	音楽Ⅰ		担当者	辻 正博		
使用教材	高校生の音楽 1(教育芸術社)					
	Music Note(啓隆社)					
学習目標	1 音楽の幅広い活動を通して、生徒が個性を生かしながら思いや意図をもって表現したり味わって鑑賞したりする力を育成し、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育てる。					
	2 音や音楽が醸し出すよさや美しさなどを感じ取り、そこに価値を見いだせる感性を養う。					
	3 音や音楽を知覚・感受して、思考・判断し表現する音楽活動の過程を通して、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばす。					
	4 音や音楽と生活や社会との関わりについて考え、音環境への関心を高め、楽曲固有のよさや美しさなどを味わうだけでなく、文化的・歴史的背景など広い視野で音楽を捉えて、我が国及び諸外国の音楽文化への理解を深める。					
学習方法	1 曲想を歌詞の内容や背景などと関わらせてイメージし、曲種に応じた発声の特徴を生かして様々な表現形態による歌唱表現や器楽演奏をする。					
	2 音楽を形づくっている諸要素を知覚し、音楽史に沿って各時代の特徴や、曲の文化的・歴史的背景を学んだり、鑑賞した舞台芸術作品から表現活動を行ったりして、音楽の多様性や美しさ、他芸術との関連などに気づく。					
	3 西洋音楽や日本の伝統音楽、世界の各地域の諸民族の音楽の特徴を知り、音楽のよさや美しさなどを感じ取って、共通性・固有性などに気づき、自分なりの価値を見いだしながら鑑賞する。					
必ず取り組む最小目標						
実現したいと思う最大目標						
評価の方法 及び 評価基準 ルーブリック	次の3つの観点に基づき観点別に3段階A、B、Cで評価を行う。それらを総括して前期末・後期末に観点別に3段階A・B・Cで評価を行うとともに、5段階(「5」～「1」)評価を行う。また、それらを総合して学年末に観点別に3段階A・B・Cで評価を行うとともに、5段階(「5」～「1」)で評定を行う。					
	観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度
	評価方法	Music Note 振り返りプリント 筆記試験		実技テスト 取り組み状況 提出プリント		取り組み状況 課題提出状況 実技テスト取り組み状況
	A	楽譜・音符について深く理解した。 音楽史・作品・背景などを深く理解した。 歌唱・器楽演奏能力が著しく向上した。		題材に対して深く考えた。 歴史や背景をよく理解した。 鑑賞した内容を的確に詳しく伝えられた。		深く楽しんでできた。 広く協力しておこなった。 より集中してできた。
	B	楽譜・音符について理解した。 音楽史・作品・背景などを理解した。 歌唱・器楽演奏能力が向上した。		題材に対してよく考えた。 歴史や背景を理解した。 鑑賞した内容を的確に伝えられた。		楽しんでできた。 協力しておこなった。 集中してできた。
	C	楽譜・音符について理解しなかった。 音楽史・作品・背景などを理解なかった。 歌唱・器楽演奏能力が向上しなかった。		題材に対してよく考えなかった。 歴史や背景からの理解しなかった。 鑑賞した内容を的確に伝えていなかった。		楽しくなかった。 協力しなかった。 集中できなかった。

年 間 計 画(変更する可能性もあります)				評価の観点		
月	週	単 元	学 習 内 容	知 識・技 能	思 考・判 断・表 現	主 体 的 に 学 習 に 取 り 組 む 態 度
4	2	(入学式)				
	3	オリエンテーション	オリエンテーション			○
	4	楽典・歌唱・ソルフエージュ	楽譜の知識・校歌	○	○	○
	5	楽典・歌唱・ソルフエージュ	楽譜の知識・校歌・愛唱歌	○	○	○
5	1	(連休)				
	2	楽典・歌唱・ソルフエージュ	音名・音符と休符・校歌	○	○	○
	3	楽典・ソルフエージュ	リズムと拍子	○	○	○
	4	楽典・ソルフエージュ	リズムと拍子	○	○	○
	5	楽典・ソルフエージュ	反復記号	○	○	○
6	1	(前期中間考査)				
	2	楽典	音階・和音・コードネーム	○	○	○
	3	楽典	音階・和音・コードネーム	○	○	○
	4	楽典	音階・和音・コードネーム	○	○	○
7	1	楽典	音階・和音・コードネーム	○	○	○
	2	(学校祭)				
	3	楽典	音階・和音・コードネーム	○	○	○
	4	楽典	音階・和音・コードネーム	○	○	○
	5					
8	1	(夏季休業)				
	2					
	3					
	4					
	5	器楽・創作	テーブルミュージック(DESK WORK)	○	○	○
9	1	器楽・創作	テーブルミュージック(DESK WORK)	○	○	○
	2	(前期期末考査)				
	3	器楽・創作	テーブルミュージック(DESK WORK)	○	○	○
	4	器楽・創作	テーブルミュージック(DESK WORK)	○	○	○
	5	器楽・創作	テーブルミュージック(DESK WORK)	○	○	○
10	1	器楽・創作	テーブルミュージック(DESK WORK)	○	○	○
	2	器楽・創作	テーブルミュージック(DESK WORK)	○	○	○
	3	器楽・創作	テーブルミュージック(DESK WORK)	○	○	○
	4	器楽	アルトリコーダー	○	○	○
	5	器楽	アルトリコーダー	○	○	○
11	1	器楽	アルトリコーダー	○	○	○
	2	器楽	アルトリコーダー	○	○	○
	3	器楽	アルトリコーダー	○	○	○
	4	(後期中間考査)				
	5	器楽	アルトリコーダー	○	○	○
12	1	器楽	アルトリコーダー(アンサンブル)	○	○	○
	2	器楽	アルトリコーダー(アンサンブル)	○	○	○
	3	器楽	アルトリコーダー(アンサンブル)	○	○	○
	4					
	5	(冬季休業)				
1	1					
	2					
	3	鑑賞	アマデウス	○	○	○
	4	鑑賞	アマデウス	○	○	○
	5	鑑賞	アマデウス	○	○	○
2	1	鑑賞	アマデウス	○	○	○
	2	(後期期末考査)				
	3					
	4	鑑賞	ウェストサイドストーリー	○	○	○
3	1	(高校入試)				
	2	鑑賞	ウェストサイドストーリー	○	○	○
	3	鑑賞	ウェストサイドストーリー	○	○	○

令和7年度(2025年度) 北海道芽室高等学校 学習指導計画

教科名	外国語	学年	1 学年	単位数	4 単位
科目名	英語コミュニケーション I	担当者	須田 睦 原林有里 古市敦史 田中秀治		
使用教材	Grove English Communication I 教科書、ワークブック(文英堂)				
	Stretch starter(オックスフォード出版) E-LEARNING(初級編)				
	e-Learning(Brains)				
学習目標	1	日常的・社会的な話題について、多くの支援を活用すれば、必要な情報を聞き取り、話し手の意図を把握したり、概要や要点を目的に応じて捉えたりすることができる。			
	2	日常的・社会的な話題について、多くの支援を活用すれば、必要な情報を読み取り、書き手の意図を把握したり、概要や要点を目的に応じて捉えたりすることができる。			
	3	日常的・社会的な話題について、多くの支援を活用すれば、情報や考え、気持ちなどを話して伝え合うやり取りを続けたり、論理性に注意して話して伝え合ったりすることができる。			
	4	日常的・社会的な話題について、多くの支援を活用すれば、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して話して伝えることができる。			
	5	日常的・社会的な話題について、多くの支援を活用すれば、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して書いて伝えることができる。			
学習方法	1	Grove:単語確認・内容把握・文法理解・音読練習			
	2	e-Learning(Brains) タブレット利用による反復練習、小テスト			
	3	Stretch:スピーキング練習・意見発表			
必ず取り組む最小目標					
実現したいと思う最大目標					
評価の方法 及び 評価基準 ルーブリック	次の3つの観点に基づき観点別に3段階A、B、Cで評価を行う。それらを総括して前期末・後期末に観点別に3段階A・B・Cで評価を行うとともに、5段階「5」～「1」で評価を行う。また、それらを総合して学年末に観点別に3段階A・B・Cで評価を行うとともに、5段階「5」～「1」で評定を行う。				
	観点	知識・技能	思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度
	評価方法	・定期考査 ・単語テスト ・リスニングテスト	・パフォーマンステスト ・定期考査		・E-learningの取り組み状況 ・課題提出
	A	外国語の音声や語彙、表現、文法言語の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用する技能を身に付けている。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概念や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりする力を身に付けている。		外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を身に付けている。
	B	外国語の音声や語彙、表現、文法言語の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用する技能を概ね身に付けている。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概念や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりする力を概ね身に付けている。		外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を概ね身に付けている。
	C	外国語の音声や語彙、表現、文法言語の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用する技能を身に付けていない。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概念や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりする力を身に付けていない。		外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を身に付けていない。

年 間 計 画				評価の観点		
月	週	単 元	学 習 内 容	知 識・技能	思 考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
4	2	(入学式)				
	3	Lesson 1				
	4	Communication with People around the world	・コミュニケーションについての考えを深める		○	○
	5		・文法: 文型・時制について	○		
			e-Learning 単語・熟語・文法	○		
5	1	(連休)				
	2	Lesson 2	・人間とペットの関係を読み取る			
	3	Pets and Humans: Together Through Time	・ペットについての自分の意見を書く		○	
	4		・不定詞と動名詞		○	○
	5	テスト前復習		○		○
6		e-Learning	単語・熟語・文法	○		
	1	(前期中間考査)				
	2	Lesson 3	・日常のさまざまなシーンにおける結びについて知る		○	
	3	Musubi - Ties and Knots	・古来、日本人が結びに込めたさまざまな願いについて理解する	○	○	
	4		・進行形 / 「S+V+O1+O2」 / 「S+V+O+C」 を理解し、聞いたり読んだり話したりする。	○	○	
7		e-Learning	単語・熟語・文法	○		
	1	Lesson 4				
	2	(学校祭)				
	3	The Power of Mushrooms	・自然界においてキノコが果たす役割について理解する。	○	○	○
	4		・現在完了形 / 「S+V+O(=that節)」 / 過去完了形を理解し、聞いたり読んだり話したりする。	○		
8		e-Learning	単語・熟語・文法	○		
	1	(夏季休業)				
	2					
	3					
	4					
9	5	e-Learning	単語・熟語・文法	○		
	1	テスト前復習		○		○
	2	(前期期末考査)				
	3	Lesson 5				
	4	Braille Neue:	・点字とデザインについて読み取る。		○	○
10	5	Connectiong Dots with Lines	・受動態	○		
		e-Learning	単語・熟語・文法	○		
	1	Lesson6	・日本人の好きな代表的な料理について知る。		○	○
	2		・食糧問題・環境問題を解決するために代替肉の果たす役割について理解する。		○	○
	3	Is This Meat Real of Fake	・関係代名詞 / to 不定詞: 副詞的用法 / 関係代名詞whatを理解し、聞いたり読んだり話したりする。	○		
11	4	e-Learning	単語・熟語・文法	○		
	5	Lesson 7	・日本のペットボトルの年間出荷本数の推移について知る。		○	○
	1	Plastic Polluting our Oceans	・プラスチックごみが海や海洋生物に与える影響について理解する。	○	○	
	2		比較/It is+～(for～)+ to 不定詞 / 「S+V+O+to不定詞」/ S+V+O1+O2(=that節)を理解し、聞いたり読んだり話したりする。	○	○	○
	3	テスト前復習		○		
12	4	(後期中間考査)				
	5	Lesson 8				
	1	Manga: A Grobal Hits!	・世界に広がる日本のマンガ文化について理解する。		○	
	2		・「S+V+O(=疑問詞節など)」 / 「S+V+O+C(=現在分詞)」 / 「S+V+O+ C(=原形不定詞)」 / It is+形容詞[名詞]+that節を理解し、聞いたり読んだり話したりする。	○	○	
	3			○		
1		e-Learning	単語・熟語・文法	○		
	1	(冬季休業)				
	2					
	3	Lesson 9	・諸外国の文化の側面を知る。	○		
	4	The Mysteries and Secrets of Petra	・ペトラ遺跡の歴史・文化について理解する。		○	
2	5		・助動詞を含む受け身 / 関係副詞 / 仮定法過去 / 現在完了進行形を理解し、聞いたり読んだり話したりする。	○	○	○
		e-Learning	単語・熟語・文法	○		
	1	Lesson 10	・家庭からの二酸化炭素排出量の内訳を知る。	○		
	2	(後期期末考査)				
	3					
3	4	Lesson 10	・家庭からの二酸化炭素排出量の内訳を知る。	○		
	1	(高校入試)				
	2	Greta Thunberg: No One is Too	・グレタ・トゥーンベリさんの行動と主張について理解する。		○	○
	3	Small to Make a Difference	分詞構文 / 「S+V+O1+O2(=疑問詞節など)」 / 強調構文 / 仮定法過去完了を理解し、聞いたり読んだり話したりする。	○	○	
		e-Learning	単語・熟語・文法	○		

年 間 計 画				評価の観点		
月	週	単 元	学 習 内 容	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
4	2	(入学式)				
	3	Unit1 Meeting People	Inntroductions	○		
	4		The verb be, subject pronouns,possessive adjectives	○	○	
	5					
5	1	(連休)				
	2	Unit2	Where people are from	○		
	3	Countries and nationalities	Yes/No questions	○	○	
	4		Writing:Favorite cities (Brainstorming)		○	○
	5		performance test		○	○
6	1	(前期中間考査)				
	2	Unit3	Talking about family	○	○	
	3	Family	Wh- questions with the verb be	○	○	
	4		Writing:Your family(Making an idea map)		○	○
7	1	Unit4	Favorite actor	○		
	2	(学校祭)				
	3	Describing people	affirmative and negative statements	○	○	
	4		Writing:Describing family and friends(Writhing from notes)		○	○
	5	Unit5	Fast-food restaurant	○		
8	1	(夏季休業)				
	2					
	3					
	4	Food and drinks	Simple present	○	○	
9	5		Writing:Favorite foods(Using a T-chart)		○	○
	1	(前期期末考査)				
	2					
	3	Unit6	Describing what you're doing	○		
	4	Things we do	Present continuous	○	○	
10	5		Writing:Whar are you doing?(Texting)		○	○
	1	Unit7	Talking about your apartment	○		
	2	At home	There is 構文	○	○	
	3		Writing:Describing a home(writing a topic sentence)	○	○	
11	4		performance test		○	○
	1	Unit 8	Hanging out	○		
	2	Free time activities	Simple present	○	○	
	3		Writing:Your free-time activities(writing from notes)	○	○	○
	4	(後期中間考査)				
12	5					
	1	Unit 9	Sports you like	○		
	2	Popular sports	Using can for ability	○	○	
	3		Writing:Sports(Using and but)		○	○
	4	(冬季休業)				
1	5					
	1					
	2					
2	3	Unit10	Future events	○		
	4	Big events	Writing:Your school break(writing from notes)		○	○
	1	Unit11	Weekend plans	○	○	
	2	Plans	be going to	○	○	
3	3	(後期期末考査)				
	4		Writing:your weekend plans(writing a revision)		○	○
	1	(高校入試)				
	2	Unit12 On vacation	simple past	○		
	3		performance test		○	○

令和7年度(2025年度) 北海道芽室高等学校 学習指導計画

教科名	情報	学年	1 学年	単位数	2 単位
科目名	情報I	担当者	若原 正人 高松朋亮		
使用教材	情報 I Step Forward(東京書籍)				
	情報 I Step Forward! 学習ノート(東京書籍)				
	プログラミングの基礎 Python編(実教出版)				
学習目標	1 情報と情報技術及びこれらを活用して問題を発見・解決する方法について理解を深め技能を習得するとともに、情報社会と人との関わりについての理解を深めるようにする。				
	2 様々な事象を情報とその結び付きとして捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用する力を養う。				
	3 情報と情報技術を適切に活用するとともに、情報社会に主体的に参画する態度を養う。				
学習方法	1 教科書を使って基本を学ぶ。				
	2 学習ノートを使って、情報や情報技術について理解を深めて定着させる。				
	3 プログラミングの実習を通して、論理的思考力を養い、プログラミングに親しむ。				
必ず取り組む最小目標	情報と情報技術について理解し、活用する。様々な事象を情報と結び付けられる。				
実現したいと思う最大目標	情報と情報技術を活用して問題を発見・解決する。情報社会に主体的に参画する為の基礎力をつける。				
評価の方法 及び 評価基準 ルーブリック	次の3つの観点に基づき観点別に3段階A、B、Cで評価を行う。それらを総括して前期末・後期末に観点別に3段階A・B・Cで評価を行うとともに、5段階「5」～「1」で評価を行う。また、それらを総合して学年末に観点別に3段階A・B・Cで評価を行うとともに、5段階「5」～「1」で評定を行う。				
	観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
	評価方法	・定期考査, 課題 ・小テスト, 単元テスト	・定期考査 ・課題の取り組み状況	・学習活動への取り組み状況 ・課題提出状況	
	A	・情報と情報技術を問題の発見・解決に活用するための知識について理解している。 ・上記の技能を身に付けている。 ・情報化の進展する社会の特質及びそのような社会と人間との関わりについて理解している。	・様々な事象を情報とその結び付きとして捉えている。 ・問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用している。	・情報社会との関わりについて考えながら、問題の発見・解決に向けて主体的に情報と情報技術を活用しようとしている。 ・情報と情報技術の活用について、自ら評価し改善しようとしている。	
	B	・情報と情報技術を問題の発見・解決に活用するための知識についてある程度理解している。 ・情報化の進展する社会の特質及びそのような社会と人間との関わりについてある程度理解している。	・様々な事象を情報とその結び付きとして捉えている。 ・問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を活用している。	・情報社会との関わりについて考えながら、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を活用しようとしている。 ・情報と情報技術の活用について、改善しようとしている。	
	C	・情報と情報技術を問題の発見・解決に活用するための知識について理解していない。 ・情報化の進展する社会の特質及びそのような社会と人間との関わりについて理解していない。	・様々な事象を情報とその結び付きとして捉えられない。 ・問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を活用していない。	・情報社会との関わりについて考えようとしていない。また、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を活用しようとしていない。	

年 間 計 画				評価の観点		
月	週	単 元	学 習 内 容	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
4	2	(入学式)				
	3	オリエンテーション	・Society5.0から情報Iの学習目標とシラバスを理解する。・実習用コンピュータの使い	○		
	4	1 情報とその特性 2 メディアとその特性	・情報とは何か理解する。・情報の信憑性を評価する方法を理解する。 ・メディアとは何か理解する。・各種メディアの特性を理解する。	○		
	5	3 問題を解決する方法 4 情報の収集と分析	・問題を発見・解決するための一連の流れを理解する。 ・PDCAサイクルについて学習する。・データマイニングについて学習する。	○		
5	1	(連休)				
	2	5 解決方法の考案 実55 アイディアの大量生産	・問題解決の各場面で活用できる発想法を学習する。 ・問題解決の各手法と整理方法を学習する。	○		
	3	6 知的財産 7 個人情報	・知的財産とは何か学習する。・著作権と産業財産権について学習する。 ・個人情報とは何か理解する。・個人情報が流出・特定される仕組みについて学習	○		
	4	8 情報セキュリティ	・情報セキュリティについて学習する。 ・不正アクセスとソーシャルエンジニアリングについて学習する。	○		
	5	9 情報モラルと個人の責任	・情報社会で生活していくための情報モラルを理解する。 ・情報社会の安全を守るための、法規および個人の責任について学習する。		○	
6	1	(前期中間考査)				
	2	21 メディアと文化の発展 22 ネットコミュニケーションの特徴	・インターネットによる情報の流通について学習する。 ・インターネットを用いた、集団による文化の創造と個人の発信について学習する。 ・ネットワークの匿名性と記録性について学習する。 ・情報の偏りと隠された意図について学習する。			○
	3	10 情報技術の進歩と役割 11 情報技術が社会に与える光と影	・電子商取引やVR技術などの新しい情報技術について学習する。 ・人工知能やロボットなどの情報技術と生活の変化について理解する。 ・情報化による健康への影響やデジタルデバイドなどの問題について学習する。	○		
	4	12 コミュニケーションとメディア 13 情報のデジタル化	・メディアとコミュニケーションの変遷について学習する。 ・デジタルデータとは何か学習する。 ・ビットによるコンピュータの情報の扱いを理解する。		○	
7	1	14 数値の表現 15 2進法の計算	・2進法, 10進法, 16進法について学習する。 ・2進法の計算と数の表現について学習する。		○	
	2	(学校祭)				
	3	16文字のデジタル表現	・文字のデジタル表現について学習する。 ・文字コードの種類について学習する。		○	
	4	17 音のデジタル表現 18 画像のデジタル表現	・音のデジタル化について学習する。・標本化周期と標本化周波数について学習する。 ・画像のデジタル化について学習する。・動画のデジタル化について理解する。		○	
	5					
8	1	(夏季休業)				
	2					
	3					
	4					
	5	19 データの圧縮 20 デジタルデータの特徴	・データの圧縮について学習する。 ・可逆圧縮と非可逆圧縮の違いについて学習する。 ・デジタルデータのプラス面とマイナス面を理解する。		○	
	1	23 情報デザイン 実58 図解表現	・情報デザインとは何か学習する。 ・情報デザインの方法である抽象化, 可視化, 構造化を理解する。 ・分かりやすい文書を作成する。	○		
	2	(前期期末考査)				

9	3	24 操作性の向上と情報技術 25 全ての人に伝わるデザイン	・ユーザインタフェースについて学習する。 ・ユニバーサルデザインについて学習する。		○	
	4	26 コンテンツ設計	・情報デザインを行う場合の一連の流れについて学習する。		○	
	5	27 コンピュータの構成 28 ソフトウェア 29 処理の仕組み 30 論理回路	・コンピュータの基本構成を理解する。・ソフトウェアの種類について学習する ・コンピュータの処理とデータの流れについて学習する。 ・プログラムの動作の仕組みについて学習する。 ・コンピュータの処理の基本的な回路と演算の仕方について学習する。	○		
10	1	31 アルゴリズムの表現 32 アルゴリズムの効率性	・アルゴリズムの必要性を理解する。・アルゴリズムの表現方法について学習する。 ・同じ問題に対して異なるアルゴリズムの解決方法があることを理解する。 ・探索アルゴリズムについて考える。・整列アルゴリズムについて考える。	○		
	2	33 プログラムの仕組み 34 プログラミング入門	・プログラムとは何か理解する。・プログラムのデータ構造について学習する。 ・プログラムの作り方を学習する。	○		
	3	35 プログラムの応用	・プログラムで制御構造を組み合わせることを学習する。 ・プログラムでの関数の利用について学習する。		○	
	4	実67 プログラムの改善 実65 気まぐれAI	・素数を求めるプログラムを開発・改善する。 ・簡易な対話プログラムを開発する。		○	
	5	36 問題のモデル化	・モデル化の考え方と、モデルの分類について学習する。 ・モデル化を使った問題解決の方法を学習する。			○
11	1	38 シミュレーション 実70 シミュレーションをしよう	・シミュレーションの必要性を理解する。 ・モデル化とシミュレーションにおける注意点を学習する。 ・テーマを決めて、表計算ソフトウェアでシミュレーションを行う。		○	
	2	40 情報通信ネットワーク	・情報通信ネットワークとは何か学習する。・インターネットの接続方法について学習する。 ・小規模LANの構築方法を学習する。 ・ネットワークに接続した場合の機器の機能拡張について考える。・家庭内LANを構			○
	3	41 デジタル通信の仕組み 42 インターネットの利用	・プロトコルとその1つとしてTCP/IPについて学習する。 ・IPアドレスについて学習する。 ・サーバの役割について学習する。 ・WWWサービスと電子メールについて学習する。	○		
	4	(後期中間考査)				
	5	44 情報システム 45 さまざまな情報システム (問)身の回りの端末の情報システム	・情報システムのサービスや形態について学習する。 ・電子マネーについて学習する。・身の回りの端末の情報システムについて考える。 ・オープンデータとその活用について学習する。	○		
	2	43 安全安心を守る仕組み 46 情報システムの信頼性	・ファイアウォールについて学習する。・暗号化通信について学習する。 ・情報システムの信頼性について学習する。	○		
12	3	47 データの活用とデータベース 48 データの管理 実73 コンビニデータベース	・データベースを処理するシステムについて学習する。 ・関係データベースについて学習する。 ・コンビニのサンプルデータベースを分析して、解釈する。	○		
	4	(冬季休業)				
	5					
1	1	(冬季休業)				
	2					
	3	49 データの収集と種類	・データの種類と尺度とは何か学習する。・データの種類と尺度を判断する。	○		
	4	50 データの分析	・データを可視化する方法を学習する。・テキストデータの分析方法を学習する。		○	
	5	51 不確実な事象の解釈 52 2つのデータの関係	・仮説検定の考え方と流れを学習する。・適切なデータの解釈方法を学習する。 ・相関関係と因果関係について学習する。		○	
2	1	(後期期末考査)		○		
	2					
	3					
3	4	実72 高校生の実態調査	・高校生の実態調査をアンケートで行い、分析結果を発表する。			
	1	(高校入試)				
	2					
	3	総合演習				○